この度、「中国人慰安婦に関する基礎調査」報告書を、歴史認識問題研究会の機関誌の別冊として、日本語と英語で皆様にお届けできることになり、嬉しく思っている。

本報告書が作成された経緯について、書いておきたい。「日本軍は40万人の女性を慰安婦という名の性奴隷にした。そのうち20万人は無給で売春を強要された中国人であった」という説が、中国人学者らによって国際社会に拡散されているが、その中心人物が上海師範大学の蘇智良教授だった。

蘇教授は、1999年に中国語で出版した著書『慰安婦研究』の中で、その主張を展開した。しかし、論証に使われた証言や資料の多くが信憑性が無い上、計算法にも問題があり、日本の学界、言論界ではほとんど相手にされていなかった。慰安婦を性奴隷と見る日本の左派学者らさえ、蘇説を支持する者はいなかった。

しかし、2014年6月、蘇教授は米国在住の中国人学者丘培培らの支援を受け、英文で共著『*Chinese Comfort Women: Testimonies from Imperial Japan's Sex Slaves* (Oxford Oral History Series)』を出版した。Oxford University Pressという権威ある出版社から出されたこともあり、米国などで蘇説が急速に拡散していった。ウォール・ストリート・ジャーナルやCNNテレビなどが取り上げ、丘教授はワシントンDCで開催された有力シンクタンクによるシンポジウムに招聘された。

蘇教授らは英語で著書を出したのと同じ2014年6月、ユネスコの世界の記憶に「中国人慰安婦関連資料」の登録を申請した。中国は同時に、「南京大虐殺の記録」も申請した。日本の政府、並びに高橋史朗・本研究会副会長ら一部学者らは、拙速な登録に反対したが、2015年10月、ユネスコ事務局は後者の登録を強行した。

前者については、他の被害国と共同で申請するようユネスコ事務局から勧告を受け、蘇教授らはそれに従って再度登録申請する準備を開始した。(2016年5月、上海師範大学をはじめとする中国・韓国・日本・オランダなどの9ヵ国15団体が共同で「旧日本軍による従軍慰安婦の関連資料」の登録を申請したが、2017年10月、ユネスコ事務局は同申請の登録見送りと、「世界の記憶」の制度改革の実行に着手することを決めた)。

そのような状況下で、このままでは国連の権威を使って蘇説が国際社会に定着しかねないことを危惧した私たちは、2016年2月、日本政策研究センターの支援の下、「中国人慰安婦問題研究会」を組織した。同会では集中的に調査研究を進め、2016年6月、本調査報告書をまとめた。入手し得る限りの日本語、英語、中国語の関係文献・資料を集め、急遽行った調査の結果だ。これまで誰も手を付けなかった仕事だが、蘇教授らの主張のおかしさをかなり明らかにできたと自負している。国際問題研究所がその価値を認めて、全文の英訳作業を行って下さった。

本報告書が、わが国と先人の名誉を守ることに少しでも役立つなら、研究会メンバーにとって大きな喜びだ。最後に、この中国人慰安婦問題研究会が、現在の歴史認識問題研究会の母体となったことを付記しておく。

(西岡力)

歴史認識問題研究

(年2回発行)

別冊 (平成30年10月)

発行日:2018年10月20日
発行人:西岡　力
編集人:勝岡　寛次
編集部:歴史認識問題研究会
頒　価:1,000円
発行所:〒277-0065　柏市光ヶ丘2丁目1番1号
公益財団法人モラロジー研究所
歴史研究室
Tel:04-7173-3197
Fax:04-7173-3199
印刷所:株式会社 長正社